

<b>全体講評：</b> 読解問題は問 1、問 2 とともに例年通り論説文であったが、問 3 の設問形式が(文章の一部の)和文英訳から(会話文の一部の)対話応答文の補充に変わった。場面状況が特定されているので、いわば対話文英訳とも言えるもので、これまでも出題されてきたものである。問 4 は学校現場に於ける計算機や翻訳機の導入が論点であり、例によって、設問文の丁寧な導入に従うことが肝要である。	<b>試験時間</b>	120 分
	<b>難易変化</b>	易化 / やや易化 / <u>昨年並</u> / やや難化 / 難化
	<b>分量変化</b>	減少 / やや減少 / <u>昨年並</u> / やや増加 / 増加

大問	類型	内容 及び 講評	レベル
問 1	読解総合	樹木に恵まれた地域の住民と、そうでない地域の住民との健康格差についての論述であるが、その理由が 4 つ書かれてあり、それを説明する小問 5 では手際良く簡潔にまとめたい。語数は 830 語程である。	★
問 2	読解総合	「ヘラジカの季節移動」という最近よく取り上げられる動物の生態についての論述であるが、小問 3 はその「移動」そのものを説明させる問題なので、(主観的)評価を交えることなく「何が、いつ、どこへ、どのように、なぜ」について過不足なく表現したい。語数は 840 語程である。	★
問 3	対話文補充	対話文の topic が「アイスクリームの売上高の季節による変動との相関性」なのであるが、実は入試直前の対策講座で「アイスクリームの売上高の季節による変動と相関する気温」を扱っており、そこでの相関表現を授業で説明したのである。講評者も今までにこれほどまでに入試問題と内容的に合致した授業の経験はなく、非常に驚いている。小問 2 にそのまま使えるので、受講した生徒は書き易かったであろう。	★★
問 4	テーマ英作文	設問文に計算機と翻訳機が挙げられているので、広く人工知能 AI と学校教育との関係に展開するよりも、基本的な計算能力や初歩的な和訳及び英訳力に焦点を合わせて論述すれば、中等教育レベルに、より親和した内容を盛り込めるだろう。	★

<b>学習指針：</b> 問 3 の設問形式が対話応答文に変更された趣旨は、受験生に対して、より場面状況(context)を精(正)確に把握した上で、それに相応しい内容を用意して欲しい、との大学側の要望である。英文自体はシンプルな口語表現なので、日頃から文章の一貫性(coherence)及び結束性(cohesion)を意識しつつ音読復習を継続することが何よりも大切である。	※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。 ※ レベル表示は次の区分になります。 難 → ★★★ やや難 → ★★ 標準 → ★ やや易 → (無表示) 易 → (無表示)
--	--